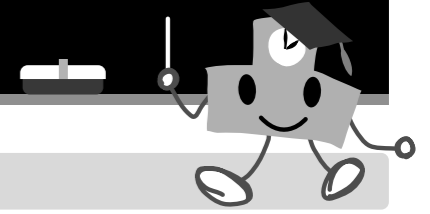


小学校の事例 豊平区 豊園小学校

地域の落ち葉を拾い、コンポストで堆肥化。実践的に学ぶフードリサイクル。

地域の清掃活動で集めた落ち葉の一部をコンポストで堆肥化。子供たちは食物に関心を持ち、食物がどのようなサイクルの中に位置するかを理解するようになっている。



内容 清掃活動がフードリサイクルに結び付く

本校は札幌市のフードリサイクル実践校として活動しており、市からもらったリサイクル堆肥や米ぬかを教材園の畑に入れ、一部をコンポスト堆肥に使ったりしている。

コンポスト堆肥づくりは、6年生が総合的な学習の時間に行っている「地域をきれいにしよう」という学習と関連付けている。この学習では、学校の周辺清掃活動を行うが、このときに集めた落ち葉の一部をコンポストに入れ、堆肥の材料として活用している。

併せて、全学年が食指導の時間に、発達段階に応じた内容で、フードリサイクルの指導を受けている。栄養指導教諭がフードリサイクルの流れを表や画像で説明したものを用意し、給食と関連付けて指導。これにより子供たちはより食物に関心をもつようになり、毎日食べている給食や食物がどのようなサイクルの中に位置するかを理解するようになっている。



フードリサイクルの流れ



ランチルームの掲示板

今後 ごみではなく活用できることを、実体験

子供たちは清掃活動で集めた落ち葉を堆肥化することで、土が肥やされ、作物の栽培に生かされることを実践的に学んでいる。コンポスト堆肥づくりは始まったばかりであり、今はまだ発酵させている途中だが、継続することで量を増やし、教材園で活用していく予定である。



冬期は温室で堆肥化

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

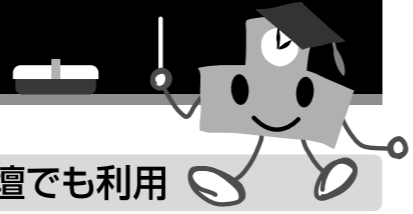
実施校から
メッセージ

落ち葉を拾ってコンポスト堆肥づくりを行った子供たちは、春に卒業してしましますが、何らかの形でその後のようすを知らせたいと思っています。子供たちの行動が「結果としてどうなったのか」をきちんと伝えることが、今後の学習に大切なことだと考えています。

小学校の事例 厚別区 小野幌小学校

地域の協力を得て、フードリサイクルを学ぶ。

地域の畑を借りてフードリサイクルを実践。指導協力を得ながら交流を深め、自主性を育てる。



内容 落ち葉と米ぬかで堆肥をつくり 畑だけでなく花壇でも利用

本校では、平成21年度から市のフードリサイクル事業に参加。学校から歩いて10分ほどのところにある地域の畑を借りて、市のリサイクル堆肥を使いダイコンやジャガイモを栽培。生活科や総合的な学習の時間を使い、農業経験者の方に指導協力を得ている。また、近所の方にも手伝ってもらい、肥料を撒いたり、畑の草取りを自分たちで行うなどすることで地域との交流や自主性も生まれている。収穫した野菜の、ジャガイモは「みそ汁」と「チーズポテト」、ダイコンは「ダイコンサラダ」と「みそ汁」などにし、給食で使用した。

畑での栽培活動や収穫のようす、ジャガイモやダイ

コンを使った料理のレシピを給食だよりに掲載して、家庭でも「食育」を考えてもらうよう取組んでいる。

また教材園では、総合的な学習の時間に落ち葉を集めて米ぬかと合わせ、堆肥を作っている。理科の授業で校内の花壇やプランター、歩道のマス花壇などで花の栽培をしているが、その際にもフードリサイクルの堆肥を使用している。

今後は、畑で作った野菜を加工したり、近隣の方にお米を脱穀してもらい、そのお米をおにぎりにするなど、さらに発展させ、継続していきたいと考えている。

今後 食物を大切に 人には感謝を

自分たちで作った堆肥で野菜を作り、食べることでフードリサイクルを学んでいく。この活動をとおり、食べ物を大事にする気持ちをもてるようになった。そして、畑を貸してくれている方や、指導してくれる方などに対する感謝の気持ちを忘れずに、これからも取組んでいこうと思っている。

今後も地域の皆さんと協力しながら、子供たちが栽培の苦労や収穫の喜びを体験することをとおしてフードリサイクルに対する理解を深め、食べ物を大切に



フードリサイクルについて展示

にする心が育つことを願っている。

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

本校の平成22年度児童会のテーマは「レッツ チャレンジ」。環境に関することでは、ペットボトルキャップやリングブルの回収について、ただ集めるだけでいいのかを話し合い、取組を広めていくことも必要ではないかと考え活動をPRすることにチャレンジしました。校内放送で告知したり、運動会で呼びかけることを考え、書記局で昼休みにポスターを持って、児童や保護者の方へもPRしました。取組のことを深く考え、自主的に行動する心が育っています。